

四国・水こぼれ話

Water Information Saloon Shikoku

談話室 Vol.62

清流とやすらぎのあるまちづくり

愛媛県 東温市長

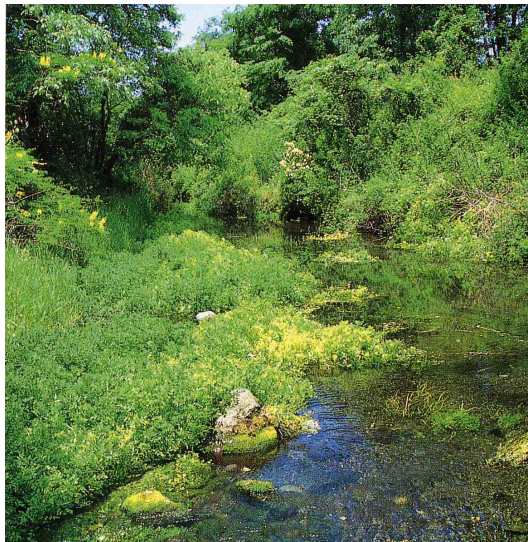
たかすか いさお
高須賀 功



東温市は、潤いあふれる水辺や自然豊かな渓谷美に恵まれており、その水の流れは、四季折々にその姿を変え、古^{いにしへ}から私たちの心を癒してくれました。

当市を代表する清流といえば、まず「滑川渓谷」があげられます。この渓谷は、長い歴史のなかで浸食された砂礫岩の奇怪な岩肌や1kmにもおよぶナメラの河床、そして流れ下る碧の水は、あたかも仙人境。自然のなかに身をあずければ、悠久の歴史が静かに語りかけてきます。自然が語る地球の歴史、街中の喧噪を離れし〜んと静かな別天地に遊ぶひととき、心と身体にやすらぎとみずみずしさがもどってくるようです。

泉の代表としては、四国のみずべ八十八ヶ所にも選ばれている「三ヶ村泉」があります。三ヶ村泉はその名の表す通り下流域三村の農業用水を確保するため、今から二百年以上前に幾多の困難を乗り越えて掘られたもので、今も絶えることなく湧き続け下流110ヘクタールが恩恵を受けております。自然がありのままの姿で残り、クヌギやエノキの雑木林に囲まれた泉は、さらさらと水の音が心地よく水の透明度は抜群で、ティレギやクレソンも自生し生態的にも景観的にも“残された楽園”となっております。



（三ヶ村泉）雑木林に囲まれ「ひっそり」と言う言葉がぴったりな小さな泉。透明度抜群

豊かな自然に囲まれた本市では数多くの滝も見られます。高さ96mの白猪の滝は、四季それぞれに美しい景色を見せ、明治の俳聖正岡子規や文豪夏目漱石も観瀑に訪れています。特に厳寒期には滝全体が氷の城となって、まさに幻想的。滝の水が凍りついた姿は、まるで氷の彫刻をなし自然の芸術作品です。

間もなく紅葉が美しくなる季節、唐岬^{からかい たき}の滝に建つ夏目漱石の句碑

“瀑五段一段毎の紅葉かな”

におもいを馳せながら、多くの人々に憩いとやすらぎを与えてきた自然、そして歴史や文化を、かけがえのない貴重な地域資源として、今後の“水と緑輝く豊かな自然がいきづくまちづくり”に生かしていきたいと考えております。

本市にオープンした「坊っちゃん劇場」では、ミュージカル・坊っちゃんがロングラン公演中です。威勢のいい早口の江戸っ子弁の坊っちゃんに対し、悠長な松山弁で「そんなことはいかんぞなもし」と返答する生徒たち、このゆったりとした言葉づかいにも、伊予人のやすらぎやゆとりが感じられます。豊かな自然に生まれ、そこから生まれた言葉にもみられる「やすらぎの心情」を大切にしたいものです。



（白猪の滝）厳しい寒さが数日続くと、滝の水が凍りついて滝全体がまるで氷の彫刻



（滑川渓谷）自然が創り出した芸術の世界、秋の紅葉、真夏の避暑にもおすすめのスポット